

名古屋大、大学施設マネジメント研究会を開催

名古屋大学は、五月二十七日に、第四回目となる『大学施設マネジメント研究会』を開催し、中部地方を中心とする国公立大学・官庁・民間企業から百二十名を超える参加者が出席した。

研究会は、冒頭に施設担当の杉浦理康夫理事の挨拶、文部科学省文教施設企画部の岡誠一技術参事官の来賓挨拶に引き続き、NPO法人ガイア・イニシアティブ代表の野中



ともよ氏による「ガイア・イニシアティブ地球環境対応と日本文化」、名古屋大学大学院環境学研究科長の林良嗣教授による「地域戦略から見た大学間の国際・地域内連携と、必要な仕掛」の二題の講演が行われた。野中氏の講演では、これからの大学は、どのような人を創るのか、そのためにどのような施設をつくるのかという本質的な問いかけがあり、地

球環境課題への取り組みに価値を見出す、コスト削減を超えた施設マネジメントのあり方についての提案があった。林教授の講演では、これからの大学間競争に打ち勝つためには、大学間の国際連携とともに、地域力としての大学連携が不可欠であるとの指摘があった。

第二部のパネルディスカッションでは、名古屋大学施設計画推進室長の谷口元教授と同室・恒川和久講師をモデレーターに、前述の講師に加え、椋山女学園大学理事長の椋山正弘氏、三重大学理事の三浦春政氏、名古屋大学施設管理部の山口博行部長が壇壇に上がり、地域連携による大学施設マネジメントのあり方について活発な議論が交わされた。

『大学施設マネジメント研究会』は、施設資産の有効活用を図る国公立および私立大学や、自治体、施設マネジメントサービスを提供する企業による、情報共有と意見交換の場として発足したものであり、今後も継続して施設マネジメントの諸課題について、議論を進めていくこととしている。

